

生物多様性国家戦略第2回小委員会 新たな「生物多様性国家戦略」に 求められることは何か

- 赤谷プロジェクトによる生物多様性の保全と地域づくりへの貢献
- 気候変動と生物多様性の危機、
特に豊かな自然環境での大規模な再エネ開発の課題

公益財団法人 日本自然保護協会 保護部
若松伸彦

日本自然保護協会（NACS-J）の概要



日本自然
保護協会

The Nature Conservation
Society of Japan

自然のちからで、明日をひらく。

全国2万5千を超える会員や寄付サポーター
に支えられて活動している環境NGO

今年は設立70周年



くらしを支える日本の自然の豊かさを守り、
その価値を広め、自然とともにある社会をつくる



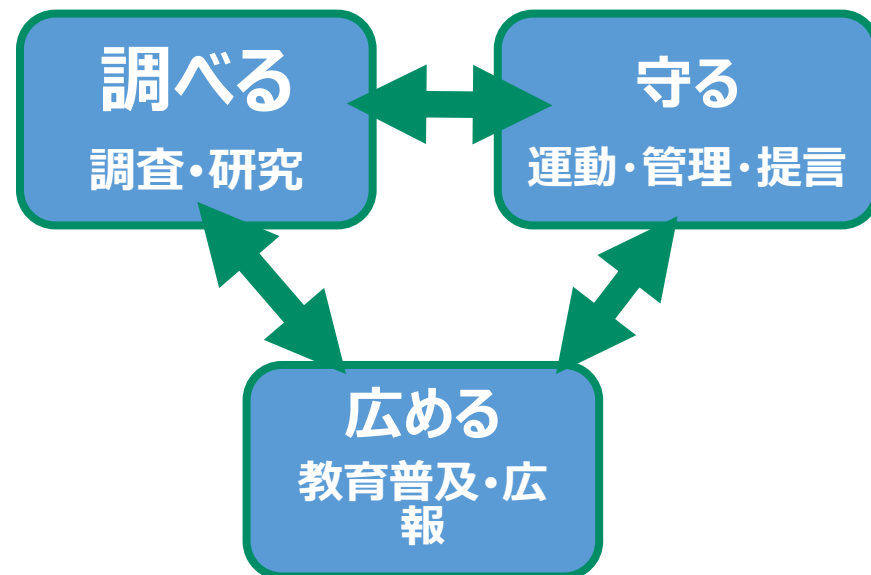
全国規模の自然保護
問題の解決と支援



自然保護を通じた
社会課題の解決



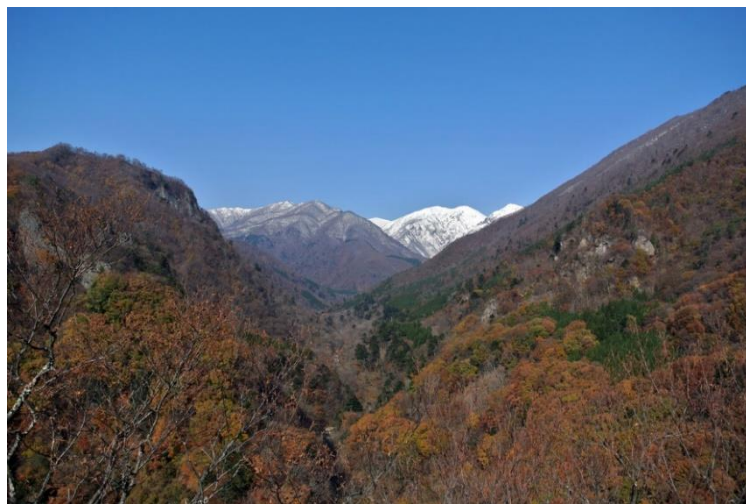
ふれあいの場と機会、
導き手を増やす



日本自然
保護協会

赤谷プロジェクト

正式名：「三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画」



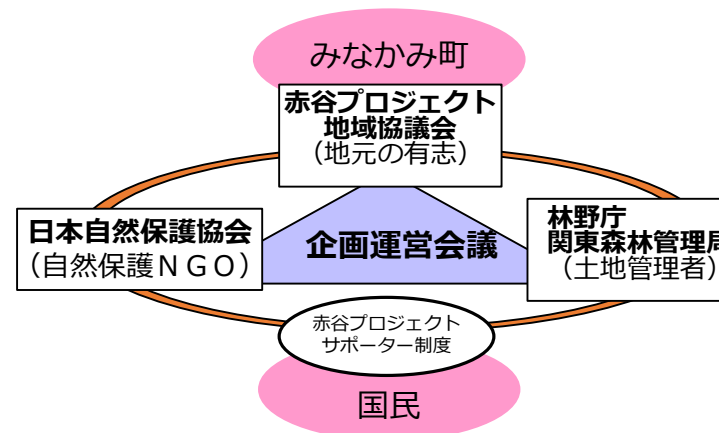
- ・群馬県利根郡みなかみ町（旧新治村）
- ・1万ha（10km×10km）＝山手線の内側の1.6倍
- ・利根川の最上流部／全域国有林

◎実現したいコト

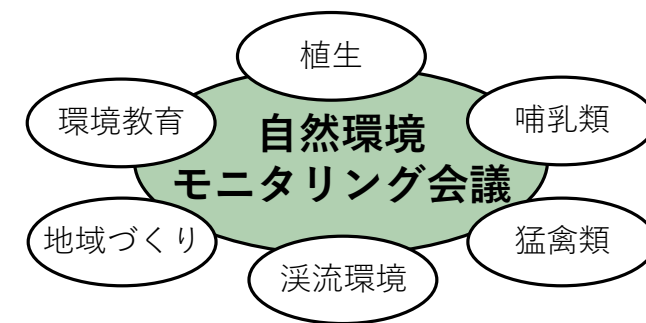
- ・生物多様性の復元
- ・持続的な地域づくり

◎大切にしている方法

- ・多様な主体で、森を管理する
- ・科学的に、森を管理する



- ・3者が10年間の協定
- ・企画運営会議（年2回）で意思決定



- ・科学的な管理を行うための『自然環境モニタリング会議』

赤谷プロジェクトによる 生物多様性の保全と地域づくりへの貢献

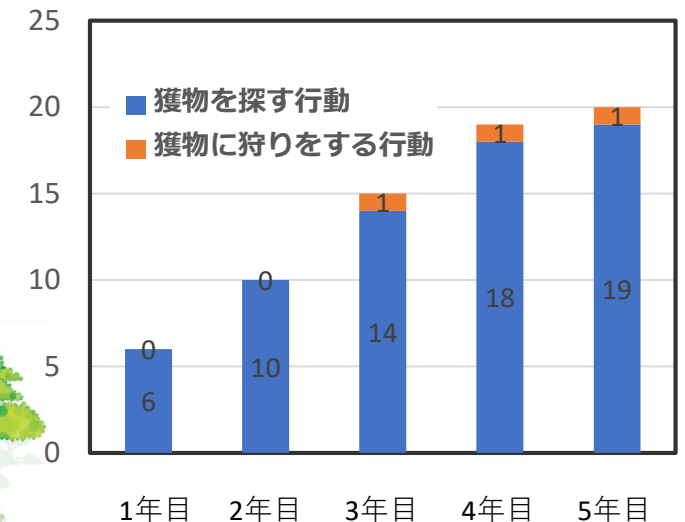
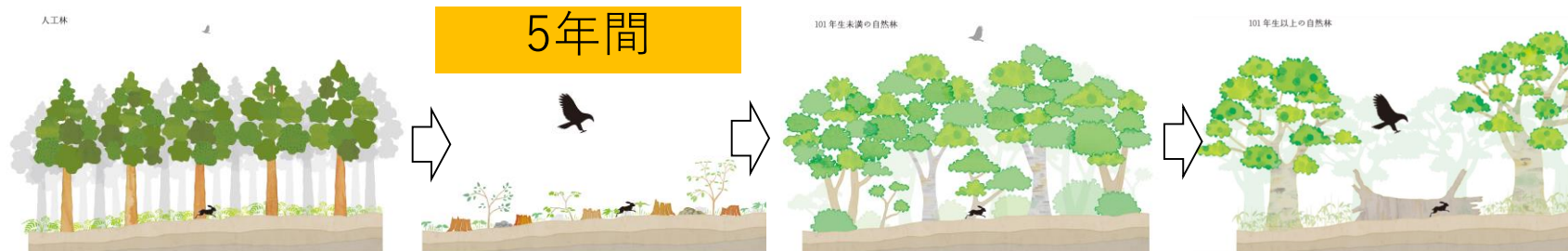
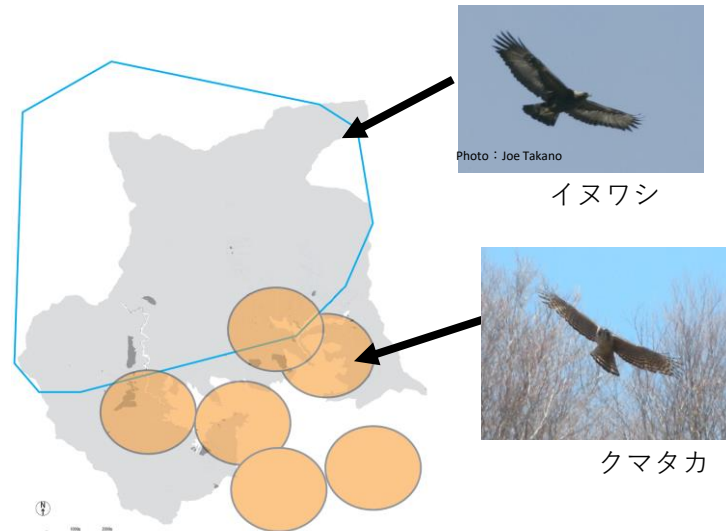
奥山人工林を伐採し、採餌空間を作りつつ、自然林へと誘導



増やしすぎた人工林を自然林へ復元

人工林の割合を現在 3 割→ 1 割に減らす

イヌワシがハンティングできない人工林を計画的に伐採して、
ハンティングできる環境に！



赤谷プロジェクトによる 生物多様性の保全と地域づくりへの貢献

伐採した材は、地域経済を潤す「イヌワシ保全産業化」をめざす



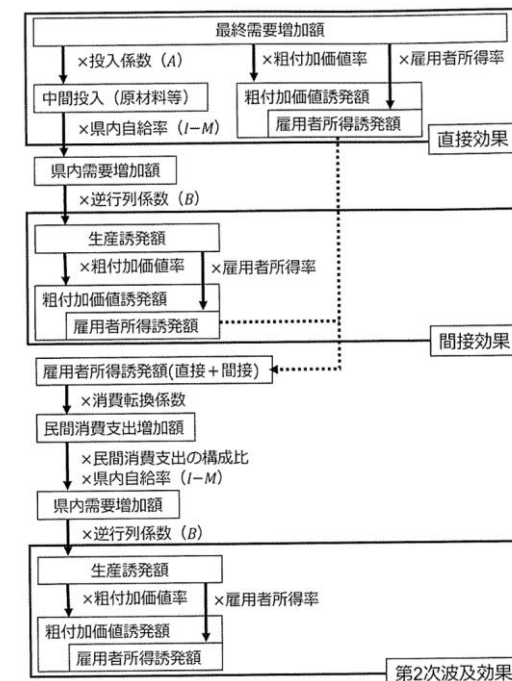
イヌワシ木材の地域内活用



- ・ 伐採した材を、イヌワシブランド化
- ・ 地域経済に貢献する経済循環
- ・ イヌワシを守ることが地域を潤す

イヌワシ産業

赤谷の森のイヌワシ試験地の木材等、自然保護につながる森の恵みを地域産業活性につなげて産業連関表で見える化。



第1図 経済波及効果の推計手順

赤谷プロジェクトによる 生物多様性の保全と地域づくりへの貢献

- 複数のステークホルダーによる協働管理
- 地道なモニタリング調査（イヌワシやセンサーカメラによる動物調査など）
- 地域づくりと環境教育
- 企業の協力・関与（世界基準）
- 地域への移住やブランド化

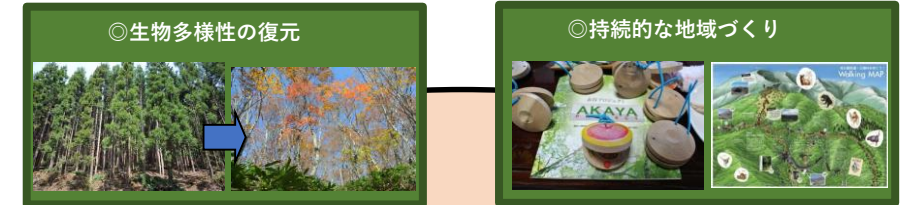
2017年6月にみなかみ町全域が
ユネスコエコパークに登録



地元・新治小学校の子どもたちと
イヌワシ観察会

NbS（地域の自然を活かした地域課題の解決）の
モデル地域

～様々な取り組み・活動



科学的な
森の管理



「国民の森」の管理
に参加する機会と仕組み

科学的な成果や取り組み
の波及・発信
「モデルプロジェクト」



News Release

2021年5月27日

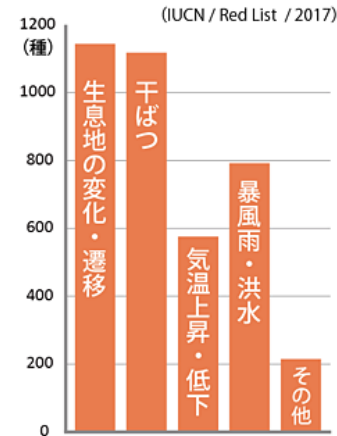
HSBC、WRI（世界資源研究所）およびWWF（世界自然保護基金）と協働
で次世代型の気候変動対策を強化

HSBCの気候変動対策戦略の一環として、1億米ドルのグローバルな取り組みにより
世界経済のネット・ゼロへの移行を支援

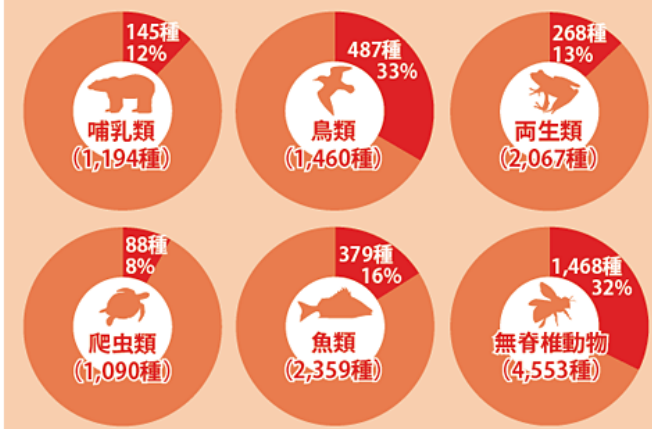
日本においては日本自然保護協会と協働で二酸化炭素貯留の環境を改善するための森林管理
に取り組む

気候変動と生物多様性の危機、 特に豊かな自然環境での大規模な再エネ開発の課題

地球温暖化の影響と、それぞれの
影響を受ける絶滅危機種の種数



各分類群の絶滅危機種（総数）のうち
温暖化の影響を受けている種の割合



WWFジャパン

- 「乱獲」「生息環境の破壊」「外来種」といった従来の脅威に、さらに「気候変動」が重なり、野生生物の絶滅リスクが増大しており、再エネの推進は行うべき。
- 一方で、自然度の高いエリアでの大規模な再エネ施設の開発が進められており、直接的な生物多様性の喪失を危惧している。現在の制度ではそれを回避する手立てがない状態。

全国の植生自然度割合

植生 自然度	区分内容	S48年度 (第1回調査)	H10年度 (第5回調査)	増減
		比率 (%)	比率 (%)	
10	自然草原	1.1	1.1	0.0
9	自然林	21.7	17.9	▲3.8
8	二次林 (自然林に近い)	4.5	5.3	0.8
7	二次林	21.0	18.6	▲2.4
6	植林地	20.9	24.8	3.8
5	二次草原 (背の高い草原)	1.9	1.5	▲0.4
4	二次草原 (背の低い草原)	1.6	2.1	0.5
3	農耕地 (樹園地)	1.5	1.8	0.3
2	農耕地 (水田・畑)	22.7	21.1	▲1.6
1	市街地・造成地等	3.1	4.3	1.2
その他		-	1.5	
合 計		100.0	100.0	

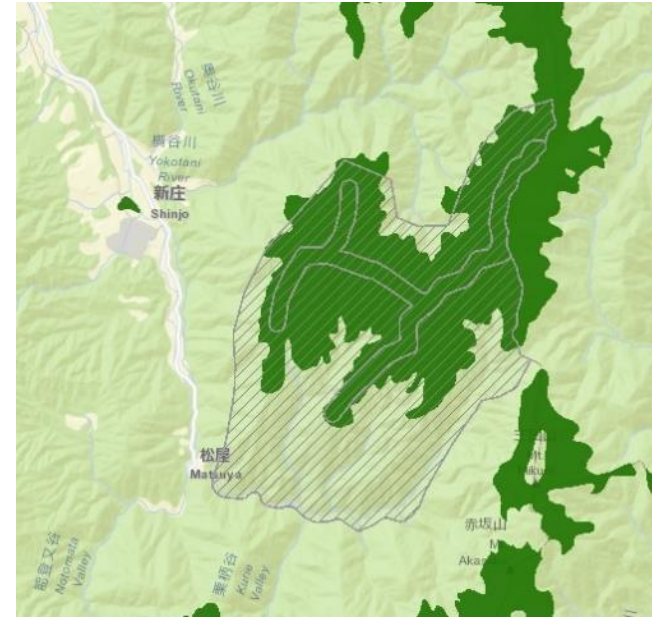


緑のエリア：自然度9、
網掛け：風力発電建設予定地

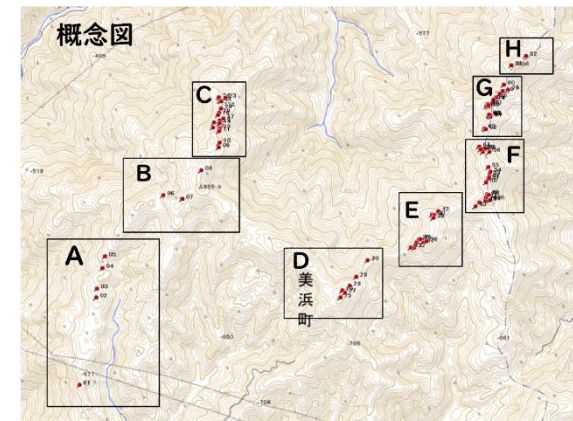
福井県美浜町、野坂山地、庄部谷山周辺の尾根筋に風力発電所（20～25基、最大105,000kW）の設置が計画されている。

- ・ 計画予定地は福井県県南で最も自然度が高いエリア。樹齢が300年を超える巨木からなる日本海性のブナ自然林。
- ・ 環境影響方法書の段階にも関わらず、アクセス道路や風況観測のための伐採が現在進行している。
- ・ 地元自治会、地権者、自治体は建設に賛成。
- ・ 隣接県の滋賀県の山岳会などが反対署名。

地元の同意が得られていても、重要な自然が喪失されるような再エネ計画が進んでいる。



緑のエリア：自然度9、 網掛け：風力発電建設予定地



建設予定地には胸高直径1m超のブナ個体が82本

日本自然保護協会からの提案

世界目標である「30by30」の日本での実現に向け、**保護地域の拡充とOECMの制度構築**が進められていることに期待をしており、さらに下記を組み込むことが重要。

- 1) 生物多様性国家戦略が、地域を巻き込み、地域の自然を活かした地域課題の解決（NbS）を主導するものに生まれ変わることに
- 2) 再エネの地域合意形成だけでなく、全国レベルの生物多様性の喪失を回避するうえでも、ゾーニングによる誘導が重要であり、生物多様性国家戦略によって、その仕組みを整えること



Figure 1 "Nature-based Solutions are actions to protect, sustainably manage and restore natural and modified ecosystems in ways that address societal challenges effectively and adaptively, to provide both human well-being and biodiversity benefits" (IUCN, 2016)